

〔璫囊抄〕^五丹鳥白鳥ト云ハ何レノ鳥ゾ、

白鳥トハ蚊也、大戴禮小正曰、白鳥ハ蚊網也ト、俗ニ鶴クヱヲ白鳥ト云ハ、只其色ヲ指ス歟、未ダ其本説ヲ不見

〔大和本草〕^{十四}蚊蟲子ヲ水中ニウムデ子子蟲トナルト云ヘリ汚水ヨリ子子蟲ヲ生ヅ、後化シテ蚊

トナル、蚊ハ烟ヲキラフ、蚊ヲ去ルニ、ウナギノ乾タルヲタケバ化シテ水トナル、骨ヲタクモヨシ、又樞ノ木或楠木ノ屑ヲタクベシ、

〔重修本草綱目啓蒙〕^{二十八}蜚蟲蠹略○中

蚊子カヒ○和名紗カヒ和名カ同上○中古歌蚊ハ夏月惡水中ヨリ生出シ、味辛シ、即子子蟲ノ羽化スルモノ

ナリ、晝ハ伏シ、夜ハ出テ人ヲ嘔フ、色微白ナリ、又緑身ナル者アリ、又身ハ瘠テ、頭ニ絮ノ如キ者ヲ

戴クアリ、顯微鏡ニテ見レバ、大ニシテ鳥羽ノ如シ、是雄ナリ、絮ナクシテ身肥タル者ハ雌ナリ、^中

略 又草木多キ處、或ハ野邊ニハ、ヤブガ多シ、^中畫出夜伏シテ、常ノ蚊ニ反ス、^略○^中三才圖會

ニ其生草中者吻尤利、而足有文彩、吳興號豹脚、蚊字所以從文有文也ト云ヒ、彙苑詳註ニ、湖中多蚊、

其中有豹脚者尤毒ト云フ、^略○下

〔嬉遊笑覽〕^{十二}蚊物類相感志九月蚊子嘴生花、また代醉編に、古諺有云、霧滂而蟹螯枯、露下而蚊喙

折、こゝにて八月あばれ蚊と云は、喙の折る前なり、花の如きもの出ては、人を刺す、

〔枕草子〕^二にくきもの

ねぶたしと思ひてふしたるに、蚊のほそごゑに名のりて、かほのもとにとびありく、はかせさへ、
みのほどにあるこそいとにくけれ、

〔枕草子〕^九大藏卿正光○藤原まつゆばかりみ、とき人なし、誠に蚊のまつゆのおつるほども、聞付賜ひつべくこそ有しか、